

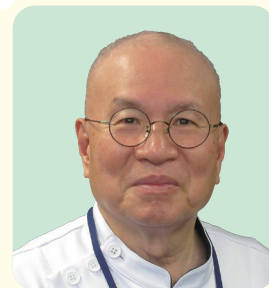


—地域連携室設置と地域連携新体制について—

地域医療を担う医師会並びに在宅医の先生方、医療職の皆様と歩む
地域医療連携の強化・推進を目指して

東京都健康長寿医療センター

センター長 許 俊鋭



世界に先駆け、超高齢社会(2023年の高齢化率29.1%)を迎えている日本では、2023年の出生数は76万人程度と予測され、少子高齢化が急速に進んでいます。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい人生を全うできる社会を目指して、2025年を目途に「地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)」の整備が進められています。

2020年に始まった新型コロナウイルス感染流行は、感染死亡の90%が70歳以上の高齢者で特に高齢者にとって極めて致死率の高い感染症です。コロナ禍の中で、高齢者の外出自粛・医療機関への受診控えが続き、持病の進行・心身の機能低下によりフレイル・鬱・認知症が進んでいます。

本年5月に新型コロナウイルス感染が2類から5類に移行し、日本社会が正常化していく中で、地域包括ケアシステムの活性化を推進する必要があります。私共東京都健康長寿医療センターは10月1日から地域医療を担う医師会並びに在宅医の先生方、医療職の皆様と歩む地域医療連携の強化・推進を目指して、センター長の下に地域連携室を設置し地域連携新体制をスタートさせました。

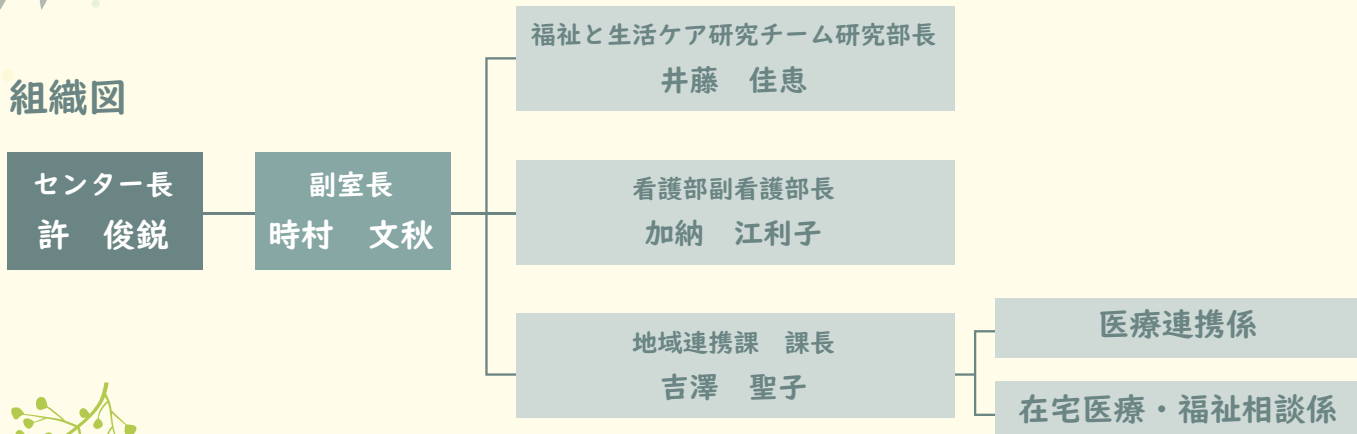
これまでの時村文秋地域担当副院長を中心に、研究所の井藤佳恵「福祉と生活ケア研究チーム」研究部長(認知症支援推進センター センター長)、加納江利子副看護部長(看護部統括、地域医療連携担当)が加わり、地域の皆様と共に病院・研究所の若手・中堅職員が一体となり医療・福祉の多職種による地域医療連携の強化・推進を目指します。

また、これまで進めて参りました医師会や在宅医の先生方と密接に連携した「患者さんの心と身体の安心をサポートする二人主治医制」を押し進め、来春の地域医療支援病院認定を目標に更なる紹介率・逆紹介率の向上を目指します。本年4月から病院救急車を導入し2名の常勤救急救命士による重症患者さんの入退院搬送システムを強化し、医師会や在宅医の先生方のご要望をしっかりと受け止めて参る所存です。

これからも、ご支援・ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

地域連携室紹介

組織図



皆様には日頃より大変お世話になっております。

この度、地域連携室は、連携を更に強化するという目的で、センター長直属の組織となりました。メンバーは、許センター長・時村・井藤佳恵「福祉と生活ケア研究チーム」研究部長・加納副看護部長・吉澤地域連携課長です。

これまで以上に地域連携の重要性を実感しており、お互い顔の見える連携を心掛けていきたいと思っております。

今後ともご指導・ご協力の程、よろしくお願ひいたします。



副室長 時村 文秋



認知症支援推進センター長、認知症疾患医療センター副センター長を兼務しております。みなさまとは、主に両センターが主催する各種研修を通じて連携させていただいております。認知症サポート医、かかりつけ医、地域包括支援センターおよび自治体の職員の方たちが、それぞれのお立場で認知症をもつ方たちに関わっていくことの助けになるよう、研修プログラムを提供して参ります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

福祉と生活ケア研究チーム研究部長 井藤 佳恵

この度、地域連携担当副看護部長となりました加納です。当センター看護部では、高齢者尊厳を尊重するとともに持てる力を引き出し QOL を支える看護を目指して高齢者看護を実践しています。私自身、元々感染管理担当として勤務しており板橋区や地域医療機関の皆さまの連携の力を十分に認識しております。超高齢化社会における地域共生社会の実現に向けて、地域の皆さまと連携し、高齢者の生きるを支える医療・看護の実践をしていきたいと思っております。



看護部副看護部長 加納 江利子



地域連携室とは、地域の皆さまに最適な医療を提供するために、かかりつけの先生方をはじめ、様々な医療機関や施設等とセンターを"つなぐ"窓口です。診療や介護を提供されている皆さま方との連携をより強化し、地域で暮らす方々に適切な医療やケアを提供するためハブとしての役割を果たしていきたいと思っております。地域連携課スタッフ一同、真摯に取り組んで参りますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

地域連携課 課長 吉澤 聖子

副院長のご紹介



東京都健康長寿医療センター
副院長・脳神経内科部長 岩田 淳

連携医の先生方には平素より大変御世話になっております。2023年10月より副院長を務めさせて頂いております脳神経内科の岩田淳と申します。

当センターに赴任して早いものでもう4年目となりますが、地域連携の重要さを感じない日はございません。私の診療科で多く拝見する疾患には脳血管障害、アルツハイマー病、パーキンソン病、てんかんがありますが、どれも患者様の数が多く、連携の先生方より御紹介いただき、そして安定されたらお戻しし、また必要に応じて御紹介いただくというサイクルがなければ診療がなり立たないものばかりかと存じます。そのような中で、新しい患者様を御紹介いただき、また、連携として日常診療をお引き受け頂いている先生方には感謝しかございません。

当院の役割としては、脳神経内科に限らず、できるだけ待ち時間なく、専門的医療による介入、急変時の対応、想定外の事態への対応、専門スタッフによる御相談、そして場合によってはレスパイト入院をお引き受けするといった事がらを重視して、先生方の御診療にご迷惑がかからないように、当院の診療体制を構築して参りたいと思っております。また、御紹介頂いた患者様については詳細なご報告、経過をお知らせできますよう努力して参ります。

先生方と供に地域の医療のレベルの向上、発展に貢献できますよう、今後とも御指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

2023年11月26日(日)開催 板橋区合同大規模災害訓練の様子

災害拠点病院として、災害発生時の初動対応から板橋区及び3師会等との協力のもと合同大規模災害訓練を行いました。



「C@RNA Connect」のご紹介

「C@RNA Connect」とは…

インターネットのウェブブラウザ（インターネットエクスプローラやクローム）で、MRI、CT、PET等画像診断や診療予約を24時間いつでも予約可能なシステムです。（※利用にはご登録が必要です。）

事前手続きについて

センターホームページの「地域連携 C@RNA Connect 新規申込書」に必要事項をご記載、ご捺印の上、医療連携係にご郵送ください。

<https://www.tmg Hig.jp/hospital/community/carna-connect/registration/>

HOME>地域連携>C@RNA Connectのご紹介>新規登録のご案内



在宅医療連携病床へのご入院について

患者さんが在宅での生活を継続するため、訪問診療医からの要請のもと、一時的（原則として2週間以内）に、ご入院を受入れさせていただきます。

老年症候群による低栄養、褥瘡、摂食・嚥下機能等の評価や罹患している病気の現状評価を実施します。そのほかにも全身状態を把握するためのCT等の画像検査や生理機能検査、内視鏡検査等の評価目的のご入院もお受けしております。なお、病状評価の結果、専門的な治療が必要な場合には、専門となる診療科へご紹介させていただきます。また、介護者の体調不良や不在時におけるレスパイトケアでのご入院も対応しております。

ご入院をご希望される場合は、医療連携係までご連絡ください。ご依頼の概要をお伺いしたのち、診療情報提供書（紹介状）及び検査データ等をFAXいただき、ご入院へ向けての準備を進めてまいります。

栄養指導外来のご依頼について

連携医の先生が糖尿病や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病治療において、管理栄養士による栄養食事指導が必要と判断された患者さんを対象に以下の内容で栄養指導外来を開設しております。

- ・指導回数は2～3回程度を目安としております。
- ・指導終了後、指導内容について連携医の先生にご報告いたします。
- ・保険診療の範囲内での指導を想定しています。

ご利用にあたっては、事前のご予約が必要です。医療連携係までご連絡ください。

各種お問い合わせ先

◆脳卒中ホットライン

TEL: 080-4116-1141 (直通)

脳神経外科医（夜間・休日は神経系当直医）が直接お電話をお受けいたします。

脳卒中の発症が疑われる場合にご活用ください。

◆緊急受診・緊急入院のご相談

TEL: 03-3964-1141 (代表)

原則として、各診療科の連携当番医が直接お電話をお受けいたします。電話交換手へ

『緊急受診（入院）の依頼です。〇〇科の連携当番医につないでください』とお話してください。

医師が直接お電話で病状等のお聞き取りをいたします。

◆東京都健康長寿医療センター

地域連携課 医療連携係

受付時間（月～金） 9:00～17:00

TEL: 03-3579-6963 (直通)

FAX: 03-3964-1392 (直通)